

門 〇 7
號 4701
卷

十寸見堂可慶傳説
門人芳室蕙洲補輯

十寸見聲曲編年集

東京 十寸見堂
芳室 蔵

昭和二十九年
五月二十四日
購求

牛欄十

てうし行

やちん抱くた乃其淡くゆくと
あるたよのなま抱くふたふと長ふ
事と人ありおこのま法つね身なるも
二葉まはれと人うちむきくし川き乃
よろろるるの代よはあささしと

中へなほいよわいやも〜せり〜共
 あり民乃のほひのまらひひ〜や
 〴〵めんれよよとち〜ほ〜まよよ
 のれ〜ある〜ち〜き〜うれ



享保十七己年四月印本河東後撰夜半樂の卷首より載
 元祖西条自作の文を抄録し〜序に極ぬ

提要

凡此編ハ元祖十寸見河東江戸半大夫の浄瑠璃の曲節を習
 ひ得て自ら修煉し充て享保の初一派の曲譜を語出し〜当
 年まで凡百享有余年の万元祖より代々の左大臣部附〜
 浄瑠璃の一派を小其縁ゆのり年代を流書あり抄せり
 て此一編に綴りあり十寸見聲曲編年集と題すものあり
 卷首に十寸見の系図并三弦弾山彦の系図をも載て
 師弟授史の梗概を知りむるのつゆとて浄瑠璃語三味線
 彈等の畧傳ハ事繁れれば系図を附りて多〜漏〜つ
 年号を標記し〜ハ浄瑠璃此如き〜時代を替銀小
 知とせん〜未詳ハ其文義脚色此次を考て替〜年間記り

引書目録

鳩鳥

享保四年板

閑室蘭洲撰鳩鳥万葉集

享保八年河東板

初半樂

享保十年板

鳩鳥新萬葉集

享保十七板

鳩鳥多後撰幸茶集

享保十七年板

紅葉集 日上

老腔器

宝曆十年宮中

江戶淨瑠璃三弦古本

宝曆十一年

江戶節根元集 同上

近代世事技綺

享保十九年板

古今役者評判記

享保元年ヨリ

不二山人廬

古板江戶淨瑠璃中

十寸見可慶

江戸淨瑠璃家譜 日上

十寸見要集

桐和

異布十寸見要集

近世奇跡考

文化元年山東京傳

歌舞妓美代記

津村のみの辯

文化八年

十山集

文政八年芝生撰

外要集

享保十年

瀬川おし

天保三年

東花集

天保四年十寸見系撰

聲曲類纂

弘化四年

江戸淨瑠璃混元集

享保十年十寸見可慶死

新古芝居番附

江戸節新淨瑠璃中

十寸見聲曲編年集總目録

江戸半太夫河東系團

三絃彈山彦系團

初代江戸半太夫略傳

元祖江戸太夫河東略傳

初代山彦源四郎略傳

元祖河東所持見堂圖

◎紋の始原

首尾の松見台の團

抱一上人筆

江戸半太夫津瑠璃外題

閑室蘭洲略傳△

一流二派領一年代の考

二代目河東略傳

二代目江戸太夫藤十郎略傳

二代目河東畧傳

三代目河東の事

山彦源四郎

三代目河東畧傳

浄瑠璃傳者行婦略傳

長命寺境内竹婦人

四代目河東略傳

五代目河東略傳

初代山彦河長略傳

竹雅畧傳

二代目山彦源四郎略傳

六代目河東略傳

二代目十見蘭洲略傳

三代目十見蘭洲略傳

三代目山彦河長略傳

三代目山彦源四郎略傳

八代河東略傳

四代早守見蘭洲略傳

七代河東略傳

四代目安河良略傳

五代目山彦河良略傳

九代目河東略傳并略傳

助六狂言浄瑠璃を用て勤めり

古版浄瑠璃本表紙摸圖

新古浄瑠璃外題

通計一百八十又餘段

當時さらばりて安の浄よりを旨とて載り二代目孫十郎
節附浄より當時流り付りて籠の錦一段のいふれ故ありて
餘の外題もを編み載りてこれと漏せし新古浄より外題枚巻に連あり

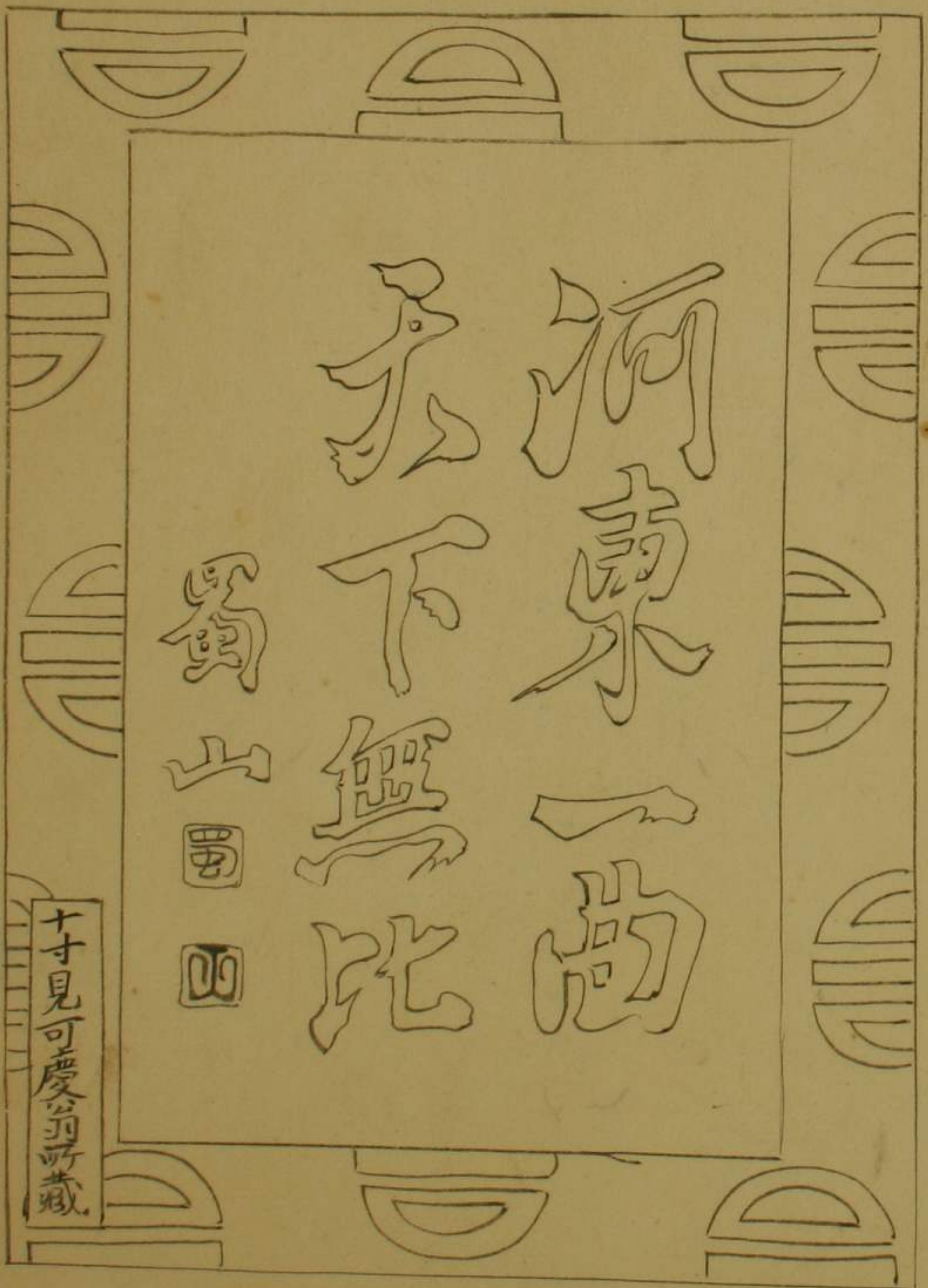
總目録終

附録

江戸大夫登里傳

同節附浄瑠璃外題

三代目江戸大夫孫十郎節付
浄瑠璃外題



四代目
山彦河良

補佐三日月

山彦文次郎

補佐三日月

山彦紫存

補佐三日月

山彦河良

附
山彦河良

家元領御連より請り
河鷹明新河良速
きま依留連迄奉

良波 初美收 加祐 後進奉成
後進奉成

留助 後進奉成
後進奉成

吉太郎 後進奉成
後進奉成

吉太郎 後進奉成
後進奉成

良金 後進奉成
後進奉成

良金 後進奉成
後進奉成

良金 後進奉成
後進奉成

良金 後進奉成
後進奉成

良金 後進奉成
後進奉成

良金 後進奉成
後進奉成

良金 後進奉成
後進奉成

良金 後進奉成
後進奉成

良金 後進奉成
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

福三 後三代新次
後進奉成

初代
江戸半太夫

坂本氏あり印名事三郎と云ふは説経奈文の半ありと肥前大夫の
進めよまのせ則肥前大夫の学ひて一派を有し江戸半太夫と改め甚たその小
住一場所の操芝居の老えとありて奥行と改め難後一は津雲と云ふ
負きよ元禄の頃より世上よもてもやされ薩摩浄雲以後江戸のその
名人なりと云や

元祖
江戸大夫河東

江戸河川所子豪家遠天満を敬た云ふの男ありて河東と云ふは伊豆
の氏を河東と云ふ河東の河と藤十郎の河と東より云ふ河東と云ふは伊豆
と名乗る事ハ真洋の鏡のくもりなくまか左の事かきり傳と子意なきは志世利
みか、右は酒をくく遊嬉つゝある産を破りて江戸半太夫
の門より浄瑠璃節を学び半太夫の節を指して和らげ自ら
市太夫と廣瀬式部大夫の節と云へて一家を有し出藍の

河東と東と云ふハ
堀所住の佳凡と
いふ若の書に
と云

附
又四代河東と云ふ
又四代河東と云ふ

不_レ力_レ言_レし享保十年乙巳七月廿日没享年四十二築地布敷
 幸塔中放勝寺葬了法諱和清西信士

享保八年
 印本
 鳴鳥万葉集
 載_レ此
 操座の図



初代
 ○山彦源四郎

元来半大夫操座の合の狂言の唄を弾たりし_レの末村又八弟子となり
 半大夫前を仰いで後元祖河東お方三弦弾となせり。元祖河東より四代
 あり浄瑠璃のよ_レ口_レせ_レく_レ寶曆六年子年五月廿日没。牛込川田窪陸鳳林寺
 葬了。法諱 利山峻享信士

十寸見可慶翁伊人てり此見台ある。真向栴花元祖河東可
 定紋あり又十寸見の一流。用末る。如此紋の始原流祖河
 東在世のときころのく其の國の守の教度めされて淨瑠璃を語はるに
 一時君より河東の ④ 如向流紋服と下賜るも此伊人著せん
 事をも悔のり ③ 如向五輪を而雜せ ⑤ となる夫人の口ハ禍
 の門をきり口ハオ一つ一つもこよよりん然とて口ハ口ハ
 つ副紋をきとそは芭蕉翁の物ソハ唇寒く秋風とつられ
 たり共句と高美の創意とも 行光又々歎

⑥ 獅子の口とあることと真向のえん様をいへと獅子の
 口と解くと云々ある據を附余の俗説なり

○播磨藩大人より古代月河東へ贈りたり。其尾松見を一町外ニ左
 模造の見巻を此御あり。又十寸見可慶翁集して所蔵也

相の木とてつくま。翁の蓋を子孫大人の因守と如き記也

看 扇

見 巻

同蓋裏小同筆少て左の如く記せり

安永七年
 河津山ふぶく丸く

白筒

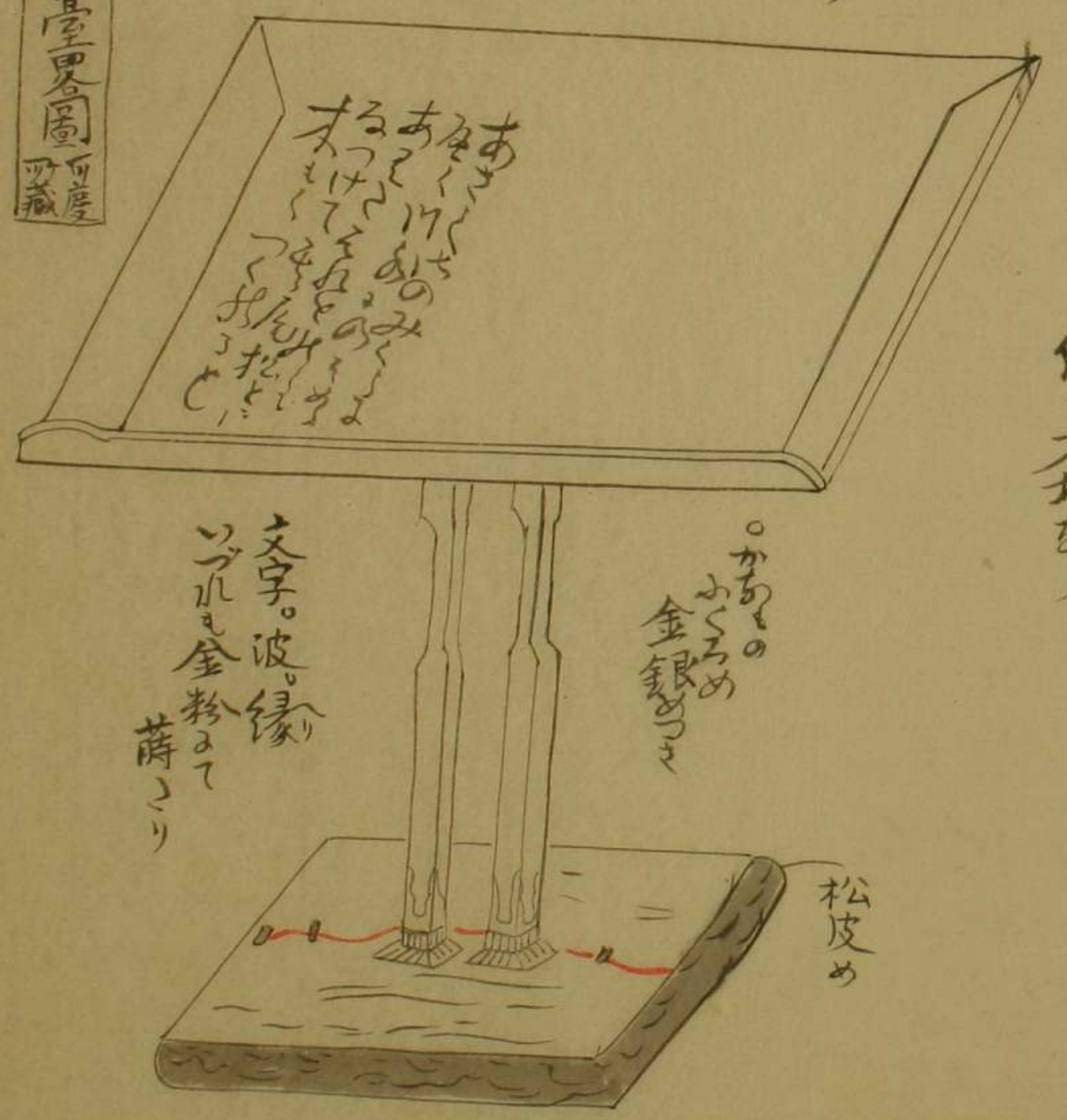
鏡板 堅尺八ト
 横一尺五寸五ト
 受八ト五リ
 木厚三トツヨメ

柱 長手二寸七ト
 巾前後九ト五リ
 左右八トツヨメ

吉室 中九寸三ト
 横七寸
 厚五寸六ト

五分
 利下

首尾松見吉室畧圖
 可度
 四藏



○總て木地あり

○かあめ
 ふらめ
 金銀どま

文宇波縁
 ツルも金粉まて
 蔭こり

松皮め

あさくはのみく〜
る〜り〜乃〜め〜
あ〜さ〜れ〜れ〜
な〜り〜松〜ら〜
ま〜く〜

右是畫の写或脚を慶應二画宣年八月中可翁より十寸見
東佐とのと蕙洲一壺脚？譲らば今各所蔵也

鶯印の君は十寸見の聲曲を好むゆゑ丹青の飽味

七代目河東を学んで語り給ひと云

河東節のうたを
江戸橋の浄を

好むを異に必語りぬゆゑと
抱二先生か〜と云

文化年中、助六七代目河東三代

目原四郎の自像并讃詞をかきたり 掛軸故ありて村

松其お平め、の持つてゑりゆゑと可慶翁譲り文正和判

たて此編の字稿やく成らんよき日可翁の色紙縮圖にて

たの〜たを

七代目河東刺殺せし時其自像をのミありて
河東お相くりぬち〜をもて慶翁おせり

紙中堅三尺牙七十摺巾舟九ト

三管山彦源四郎官儀

中茶品
如中
言品

菅市川三枝勘五郎圖

本之介
足名
養子左様

七代江島泰河東儀

於
十見
吹

引の柳の舟舟

表世表自茶色備工文字度畫地桐銀



管吹



音吹



音吹

引の柳の舟舟

花丸



上下

直傳 草指

花丸

口キ 半之丞 同 半十郎 文治市 三味線 中村公太郎 元濱町 草指

いざね

蕙洲藏本

卷中古印本の表紙の質素なり。手裏のくまを摸
 と他縮図を編者自筆となあり。大八固より 上梓
 是を信し務之看官その拙きを笑ひてあそ

春其独語

上喜 淨瑠璃ハ江戸ノ東難波のみある(き園の
田舎よ其所の風あつて下海がそむた事
様ありて江戸の淨瑠璃ハ女を
我々の好みあるを故に酒もあつても
いさめはれぬつとある 下喜

十寸見聲曲編年表

東京

十寸見堂可慶翁傳説
門人 芳室 蕙洲 補輯

初代江戸半太夫が節附淨瑠璃當在河東節ヲ語り傳ふる
一段淨瑠璃外題之部

- 式部三番叟
- 四季の蓬萊
- 道成寺
- 三輪の山
- 咲か相の山
- 蓬萊
- この朝
- 風流志の松
- 貝流く
- 唐厨廊
- 幕の紋盡
- 栞辨慶
- さぬ多

同續淨瑠璃抜物外題之部

- 黒小袖浅黄帷子三原目
- 日蓮記葎目
- 余舎和曾我初段
- 山林太夫
- 夜目遠月笠の内五段目
- 景清雪閑谷葎目
- 山初段
- 景清道行

○湯女の遺恨放下傳 初段 温泉揃 三段目 道行 日八郎 鱈の段

○平安城都定 四段目 天皇忍びの段 二段目 付教祈 鐘の段

○聖代時津風 清盛道行 金輪の段 蟬丸 二段目 悟の段 同道行

後名代替リ 恋情ハ衛士の篝火 依恨ハ三の鉄輪火 蟬丸紅葉傘

○神力小銀口初午祭 小簪名銀の巻 信田妻道行 同釣狐の段

○繪合色安宅 三層 鎗踊 ○忠臣京土産 三層 金山物語

○虎のあし嫁 入五人曾我 三層目 元服五郎 日帯曳の段

○西行の長し傾城旅衣 江の道行 ○百日曾我 三段目 傾城請状

○好色子之助 三段目 清見八景 ○和國美人歌争 二段目 小神摸様

薩摩外記節當時河東節 語り傳へる浄より外題

○浮世傀儡師 ○泰平住吉祭

李保丙 申 元祖河東ハ貞享元申子年 出生元享保元年ハ三十三歳也

二 厚丁 松の内竹婦人作

三 戊 年 十寸見河文 双笠

江戸大河東 三味原 山彦源四郎

此三絃の正附梅都 此三絃の正附梅都 と去者あせと七目よとせ居 難を河東相方と成り芝居 をて兜

四 史 元

元祖河東 附箋

五 庚子
六 辛丑

志死 神樂獅子
三辰 齋出初
同 忍心 周十郎作

早 村見 河文
江太夫河東 御 香 改
三絃 山彦源四郎

八 卯 癸

自越 水上蝶比羽番
突出の 帶曳羅結
紋日 ちのちのち

早 十見 河文
江太夫河東 寸見 夕文

正月二月の中村座大富商曾我才一番目
淀尾辰五郎の役 二代目市川團十郎
いざさや吉妻の役を勤し佳優未老
以犯言卒日與の三日休之又五十月與の在鼠
木戸生押枝りし程の大入大当ありしを

春中村座大富商曾我才二番目
哥舞延年代記市川門之助三升を助十郎團十郎
郎三人層賣のけ合せり。二番目せり。大富商
門太郎五郎の國十郎水蛙の羽番とす。江戸
江戸河東勤め切。廣源四郎十郎。帶曳羅根を
大入当り下畧
按 其係年役者評判記 役者辨振舞 世時

此古印本牧氏所藏也今不存仍以余先年圖縮因藏做古圖之



江戸太夫 河東
三味線 源四郎



ま

江戸半太夫 末廣
正本所 改正

おあまがし



おあまがし

一回

益

水鏡

曾我誓院分二番目

市川團十郎
市川團十郎
市川團十郎



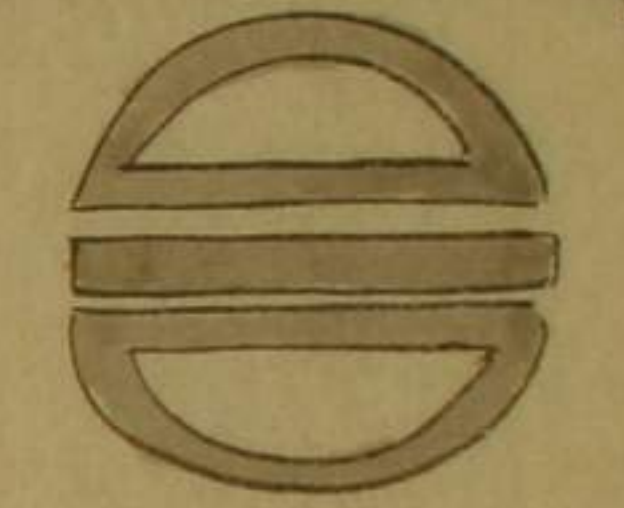
弟子河太
河東

三味山人
三味山人
三味山人

直傳

芝神
味屋

可慶翁藏本



三味線
山源四郎

山源四郎

元濱町
山源四郎

大穴電高曾我分一番目

中村屋


三虎

神樂
獅子

并辰丸山勤市川團十郎
并辰丸山勤市川團十郎
并辰丸山勤市川團十郎

可慶翁藏本




 章 弟子 河文
 指 天 東
 三味線 山彦海四郎 上村文次郎
 通塩田
 奥村屋



曾我替閑喜 二番目
 中村 彦

 河文
 大 河 東
 三味線 同 夕丈 今板形之能く時
 山彦海四郎 山彦海四郎

湯島天神坂町
 名 小松屋
 版元 傳七郎 在八郎

比下十二段
元祖河東
附浄土り事代
未詳新編通
九の附録ニ
載ベシ

今年七月廿
元祖河東
畧仔前記

		九辰甲		十巳乙	
三弦 山彦房四郎 上じ上村文次郎	狂女何ら可帯	雛の出流うい	江彦全河東村見河東 三弦山彦房四郎	草枕狂女の段	隅田川舟の内合調 江戸大夫河東 都大夫三中
富沢門太郎ハ中村彦三不出大坂尚座出勤若虎方 の部入ハ中村彦三ハ持と勤ハあるハ云ハ云ハ云ハ 月書ハ時ハはは坂屋河東村ハ和音野ナリ	中村彦三神伊三日記オ三書目 梅ハ奇帯ハ十枚帯ナリ女三條勤太郎ハ 相方ハ立役ハ後村彦三郎ハ即ハ人ハ狂 ナリ也	○雛出つ云ハ山下金作ハ早川初瀬と 志ス也			○此三中ハ二代目一中 元祖中の嫡子 と成リ一全五丈三中ハ人ハ敬



江戸 戸

干欄干

弟子 河東

三味せ 同 夕丈

山彦房四郎 味ハ有ハ水ハ有ハ下ハ

河東 小松屋

河東 小松屋

河東 小松屋

神伊三日記 中村彦三

狂女何ら可帯

并ニ毛ハ出流うい

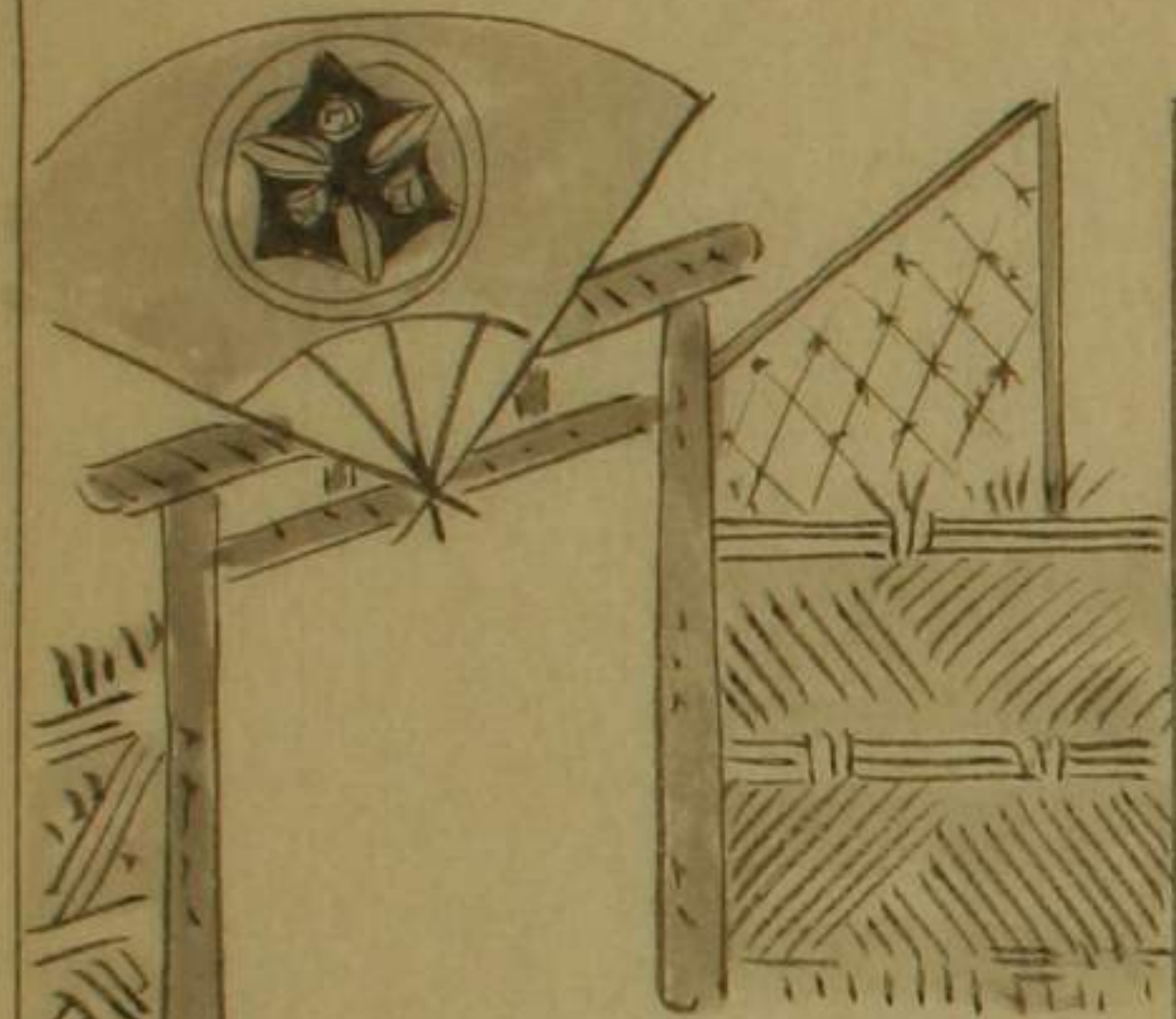
湯屋天龍坂下

急小松屋

河東彦三所

板元 傳七郎

板元 八郎



さん女

関北

河東

山女屋能相勤中依

中村産并二番目

江戸

河東

弟子河文

三味作 山彦源四郎

酒

河東を侍りては本
小松や侍りては本
は三つるるんねと下

版元 傳七郎

五小松

湯島天神女坂下
五さし問を

江戸

河東

弟子河文

三味作 山彦源四郎

酒

河東を侍りては本
小松や侍りては本
は三つるるんねと下

版元 傳七郎

五小松

湯島天神女坂下
五さし問を



福

中村産

河東

ちび

むち

江戸

河東

弟子河文

三味作 山彦源四郎

酒

河東を侍りては本
小松や侍りては本
は三つるるんねと下

版元 傳七郎

五小松

湯島天神女坂下
五さし問を

江戸

河東

弟子河文

三味作 山彦源四郎

酒

河東を侍りては本
小松や侍りては本
は三つるるんねと下

版元 傳七郎

五小松

湯島天神女坂下
五さし問を



純粋酒

直傳正本

中の在

大振勢曾我

才武香月



深天

河文
夕文
才子連彈

湯乃天神女坂下
地本
向石
石小松石
河東三本石
傳七郎
哲七郎

江
才子
河文
河東
酒
東
河東
三味線
夕文
才子

湯乃天神女坂下
石小松石
河東三本石
傳七郎
哲七郎








河大

三味線
 山彦 宗子 琴
 上村 宗子

早
 宗子 琴
 山彦 宗子

全蔵本



河大


三味線
 山彦 宗子 琴
 上村 宗子

早
 宗子 琴
 山彦 宗子

宗子
 中村
 直伝

大振勢勇我
 中村彦

守之んめ



河大

三味線
 山彦 宗子 琴
 上村 宗子

早
 宗子 琴
 山彦 宗子

宗子
 中村
 直伝

大振勢勇我
 中村彦

守之んめ



三味線
元領町
山彦源四郎

長太夫河東

元領町
山彦源四郎

曾我蓬萊山 第一番目 中村彦

酒中花

大谷廣次三條勘助郎お勤中村



附箋
前酒花
後水
右入替

<p>十二丁 十寸見河丈<small>三法</small> 山彦源四郎 十寸見夕丈 山彦源四郎 十寸見夕丈 山彦源四郎</p>	<p>十寸見河丈<small>三法</small> 山彦源四郎 十寸見夕丈 山彦源四郎 十寸見夕丈 山彦源四郎</p>	<p>十寸見河丈<small>三法</small> 山彦源四郎 十寸見夕丈 山彦源四郎 十寸見夕丈 山彦源四郎</p>	<p>十寸見河丈<small>三法</small> 山彦源四郎 十寸見夕丈 山彦源四郎 十寸見夕丈 山彦源四郎</p>
<p>其後天山の秘舞等てつとてかゝるのハサヒガの 大河も老ばり通ぬあすりしと云はれ 七月元祖河東三回尾追善 は浄るりも下瀬川と月々海國川の如 中にて清き日喧々大いひりしと云</p>	<p>新吉原角町中の方字也勘助郎の長女玉菊 享保十三年三月九日身歿七月付の町 の茶花大なる善進善考軒灯籠をたす是より不 灯籠の形をたす世の人のたすあり 表繪画傳修二代目村七郎谷書宗洲が 成澤りりる前せあり時江彦節をぬりいと閑 字宗洲催にて村娘人文を伴ふり山彦源四郎 附て三回尾の追善と云りしと云</p>	<p>正月の中村彦曾我蓬萊山才二番目 と云か何れなる大谷廣次大磯の虎三條勘助郎 享保十三年役者評判記 役者色紙子 立役の部上土居大廣次 評白上黒川春曾我蓬 萊山はもの朝比奈園十郎とのと相違ひ極の</p>	<p>其後天山の秘舞等てつとてかゝるのハサヒガの 大河も老ばり通ぬあすりしと云はれ 七月元祖河東三回尾追善 は浄るりも下瀬川と月々海國川の如 中にて清き日喧々大いひりしと云</p>

夕丈江戶太丈二代目孫十郎と成
 郎相方三法弾と成て一廉二派
 為りの後の明燈を俟のし

父事
 三代目
 孫十郎

十八 富士
 筑波 二重霞

古印本
 山登河四郎 十寸見孫三郎
 江長夫孫郎 十寸見孫四郎
 岡守教郎 山登河五郎

十九 申
 瓦形かきく

○二代目河東ハ新吉原大門外ハ佳通称下駄を在るハ
 元祖河東ハ今ハ河東後二代目ハ後今
 戸慶長寺中瀬江院
 新長年寺墓碑ハ似屋ハ法屋ハ是ハ何れ是ハ

市村座英分身曾我 才二番目
 助市 市村竹之丞

古印本
 市村座英分身曾我
 市村竹之丞

古印本
 市村座英分身曾我
 市村竹之丞

以下二段
 二代目果
 前附義
 未詳部

昏河東
 俗替彦

漂浴衣地主江櫻

吾妻あめむ

いの字扇篇人作

江長夫河東 十寸見東胤

尺八初音の寶船

江長夫孫十郎 三法 筑波四郎

江長夫河東ハ新吉原大門外ハ佳通称下駄を在るハ
 元祖河東ハ今ハ河東後二代目ハ後今
 戸慶長寺中瀬江院
 新長年寺墓碑ハ似屋ハ法屋ハ是ハ何れ是ハ

七月廿日河東名松と浮り也
 文句六の字五字字あり板名存り也

近世奇跡考 竹婦人傳の条下
 いの字扇 納子考也

哥舞故年代記春市村座 振分駈初曾我
 相虎時鼓市川外郎虚無僧の浮り也
 の宝船江長夫河東ハ新吉原大門外ハ佳通称下駄を在るハ
 元祖河東ハ今ハ河東後二代目ハ後今
 戸慶長寺中瀬江院
 新長年寺墓碑ハ似屋ハ法屋ハ是ハ何れ是ハ

和食の節



市村産

三味線の代三



三味線
山元源四郎
深天斎
上調子
山元源四郎
琴
上村文次郎
花笠
双巴
前郎
前郎

下町山
新目
いっし
前
ごん
長
ちん
ん

富士 二重霞



市村産

夜房分才曹家

竹とまの相勤
異本三つたのり



三味線
山元源四郎
寺見前三郎
上調子
深天斎
寺見前四郎
三味せん子
山元源四郎
固安新次郎

湯宿天神
急松
女坂之下



三味線
 彦源四郎
 才子
 寸見藤郎
 江辰夫藤十郎
 寸見藤郎
 岡安新次郎
 山彦右衛門

故人道統
 湯島天神坂下
 流傳
 地本
 正本如此
 馬場問屋
 大夫直之
 印形以
 白本所
 全板著也
 版本
 喜八郎



初年青葉笛才二番目
 市村應
 櫛



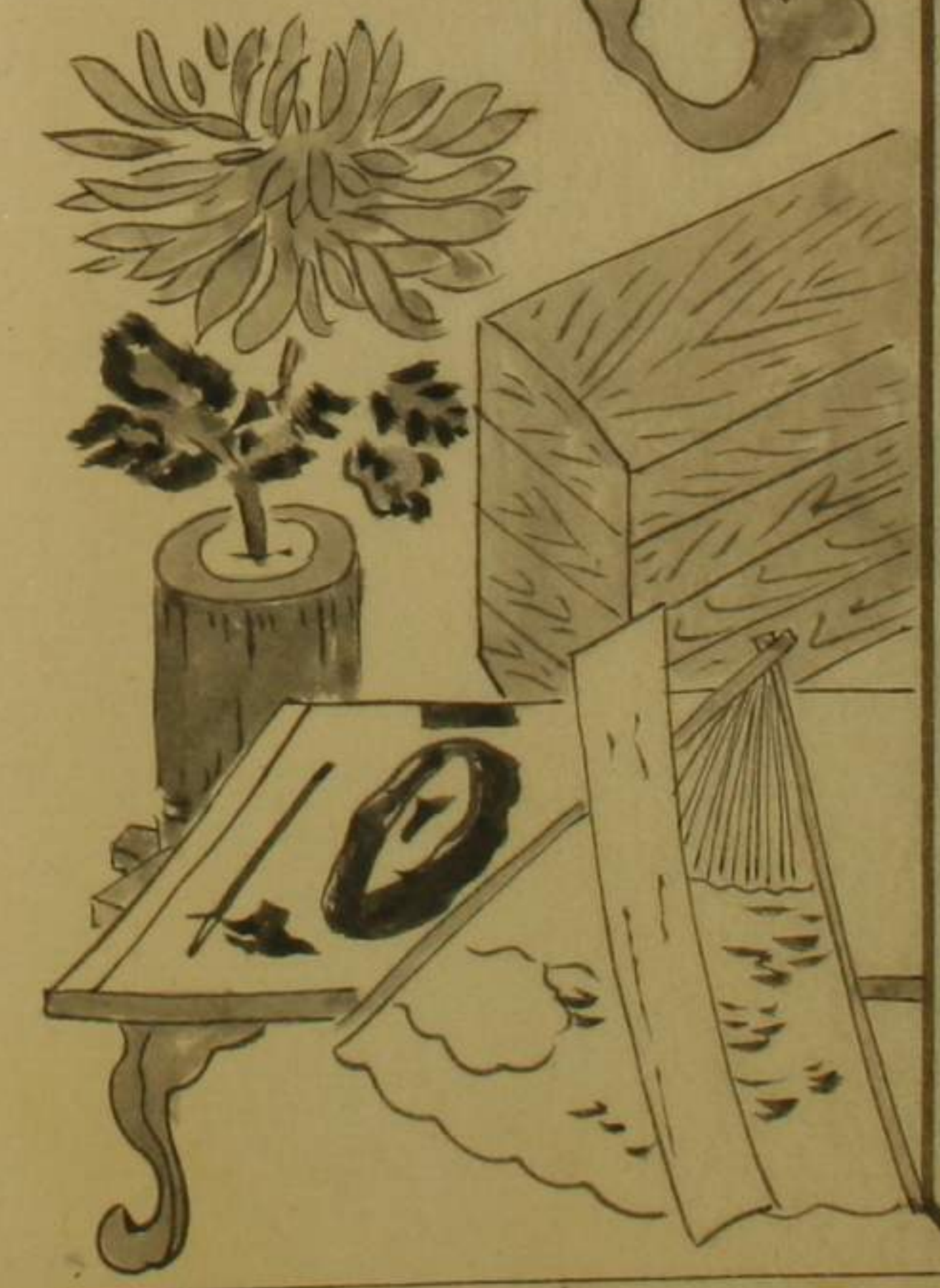
三味線
 山彦源四郎
 才子
 寸見友四郎
 江辰夫藤十郎
 寸見友三郎
 岡安新次郎
 山彦右衛門

湯島天神
 坂下
 女坂之下

初年青葉笛 才四番目
 市村應



徳々急かき
 子々



三味線	山本徳四郎	山本徳四郎	山本徳四郎
江戸大夫双笠	江戸大夫双笠	江戸大夫双笠	江戸大夫双笠
江戸大夫双笠	江戸大夫双笠	江戸大夫双笠	江戸大夫双笠
上調子	山本徳四郎	山本徳四郎	山本徳四郎

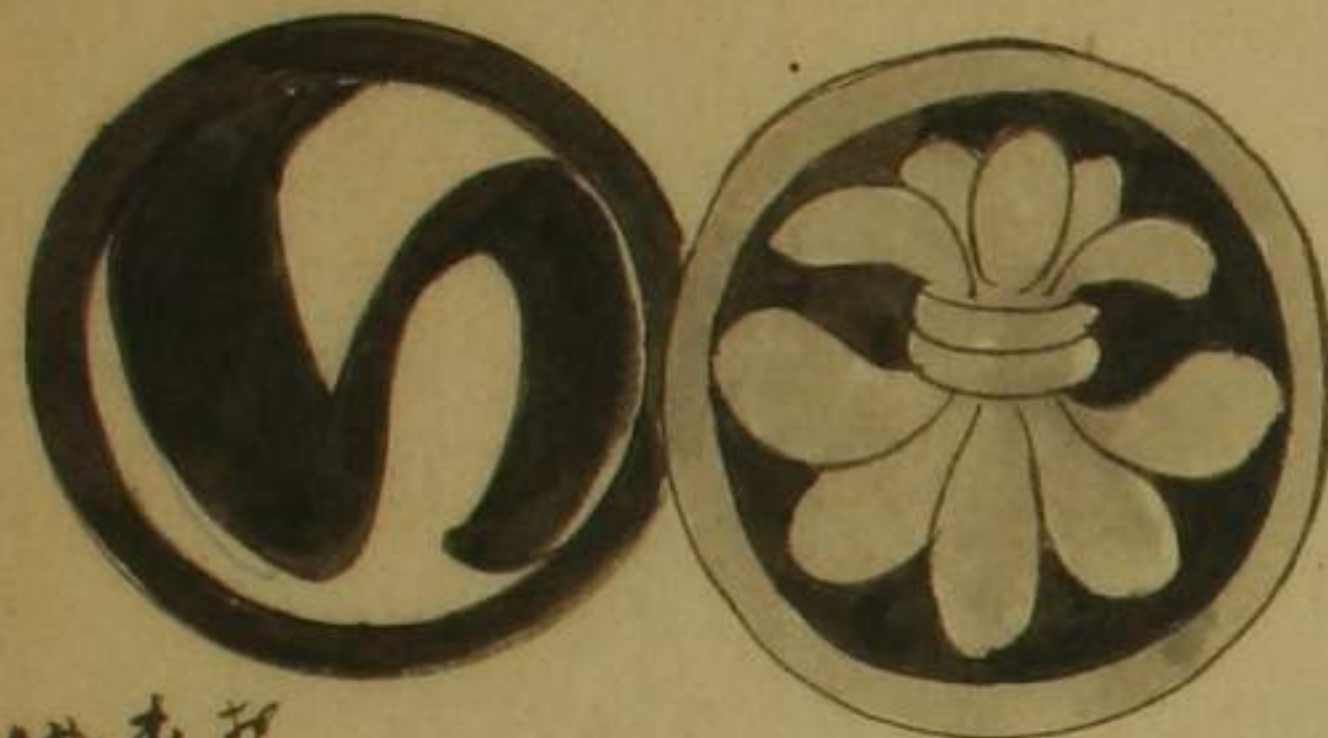
あこ山可
 きたるめ
 りつと也
 ごと甲ら
 まんもち
 むんもち

友の抄

竹在隨筆	江戸河東	古印本	追夢の秋	古印本	江戸河東	三法	三法
十見沙洲	十見東佐	十見東佐	十見東佐	十見東佐	十見東佐	十見東佐	十見東佐

元祖河東十三回忌追善浄より也
 他端茶を何うして清く
 他處隨筆より清く、山本徳四郎と
 此の十三回忌追善浄より也
 五菊の追善浄より也、今年十三回忌
 追善浄より也、今年十三回忌
 追善浄より也、今年十三回忌
 追善浄より也、今年十三回忌

古印本巻尾に元文二年巳年表則れり
 記せりこもをばさく河東十三回忌
 追善浄より也、今年十三回忌
 追善浄より也、今年十三回忌
 追善浄より也、今年十三回忌



江原大夫河東

ワキ
河洲
蘭爾
三味線
山彦右左衛門
孫四郎

板元所
魚いかに
元濱町

姫錦曾我

才二番目

中切ら彦

瀬川菊三

沢村宗十郎 相勤ヤト

紅白油
夜梳櫛男黒髪



四七
赤

五
申庚

紅白油
梳櫛男黒髪

江原大夫河東
山彦右左衛門
孫四郎

梅くせりの鶏

日回座の名称才二番目
中村七三郎
太夫清澤の上役名末洋
山朝宗四郎

三月中村彦
替名末洋
元祖瀬川菊三郎
元祖菊三郎
山朝宗四郎

寛保

二戌壬

髪梳るもん作

古印表
後三番目
官里
江原大夫河東
後山彦右左衛門
孫四郎
才二番目
東治
永治

二月四日河原崎座
紅白和曾我才二番目
古印表
中村七三郎
辰岡久菊
歌舞狂言代記
中村七三郎
園三郎
津門三郎
石岡久菊
役者無人て不
入少
江戸のり
のり
不見
三
竹
河
原
座
長
勤
と
終
る
古
印
本
を
抄
出
し

三代河東
終花野行

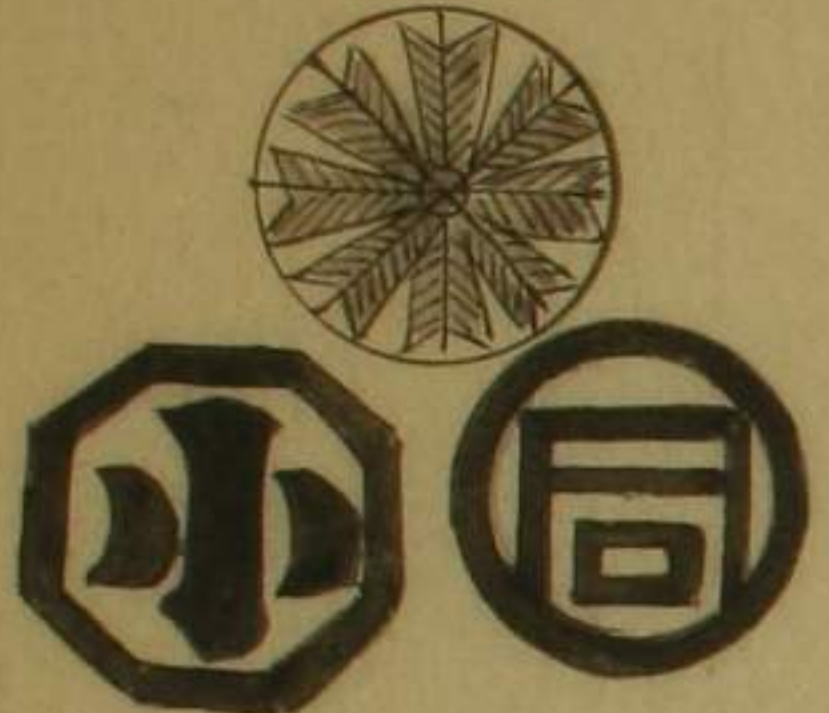
二 丑乙	延 享甲	三 亥癸
<p>○三代河東、二代河東の別人<small>格稱</small>初名河洲後三代目河東相續元節附古今の名譽なり此の端次第子位中後新吉系揚所又移住此今年七月廿日終 箕輪土牛先壽榮寺ニ葬片 法諱 潭譽澄瑞信士</p>	<p>追時雨傘 寸見早治古印ありは小平次常回ニ不載不詳堤堂述</p>	<p>江辰史河東 三代山後源四郎 山後孫四郎 山後河原良 寸見常洲 寸見常洲 寸見常洲 江辰史河東 三代山後源四郎 三代山後源四郎 早山文孫四郎 山後源四郎</p> <p>哥舞收年代記安永三年上林田座 着籍留曹我 お七富十郎 野梅 三津 五郎お七江戶河東源より後の編笠 所作大できありあり</p> <p>同書天明五年春相座 室重三景常我 三代瀬川弟之丞お七お七は源より河東 源より河東の備笠の所作勤瀬川源より 大谷徳次其人お七ありあり</p>



寸見河洲
寸見武文

三代河東
山後源四郎
山後孫四郎
山後河原良

可慶お七
太夫直傳
寸見武文



娘曾我凱陣八島牙式書曾中村在

乱髮夜湯笠

中村富十郎 佐野川市松
お七音八 お七お七

以下二段
三曾河東
前洲集代
未詳部

四曾河東
俗種前

三 寅丙	<p>常盤の聲</p> <p>古印本三 河東信之助改 江辰夫河東 三浦俊 山彦源四郎 山彦源四郎 山彦源四郎</p> <p>十寸見沙洲 十寸見南示 十寸見小平流</p>	<p>小年の技</p> <p>深村 の字作</p>	<p>喉の相の山</p> <p>詳大丈 節取</p> <p>山彦源四郎 山彦源四郎</p>	<p>追味毒を州竹筒子述</p>
<p>江戶節根元集三常盤のまを節附序平次河東 三法初源節は清うらハ小東吾妻春系操の</p>	<p>八月十九日代目河東三郎の各弘ノ浄溜 臨あり 可慶公の説ニ此時信之助十五才ニてありと いふ事</p>	<p>古印本ニ芝居屋元名不記 七種富貴曾我 二番目 お七狂言吉三胡弓をも場浄うら</p>	<p>何りの追善浄うら也古印本ニあり</p>	

笑みけ 七種富貴曾我



三番田目



やま天神
この年の秋
女坂の秋

あいの山 心身たまはぬ

小松平の枝



河東胖傳之助改



河東 小松平

山彦源四良

十寸見沙洲

十寸見河東

十寸見東佐

山彦源四良

山彦源四良

湯谷天神
女坂下町

小松平

直傳之
正本所

二 寛 四
巳 辰 戌 卯 丁

河東 小松平
山彦源四良
山彦源四良

助六郎の家櫻

河東 小松平
山彦源四良

股の内よりぬきもの也
古今の未だ延享三年七月廿一日
定まらぬ三代目河東の宗附を三代目の一周
忌に追善の爲に法興寺に追善の爲に法興寺
此傳の志をせり

三月三日より中村彦四郎宗次郎
助六郎の市川海老蔵 揚卷 市川宗三郎
市川宗三郎 朝野平市川宗三郎
山彦源四良 大浮刺大入太市川宗三郎
山彦源四良 大浮刺大入太市川宗三郎

江 戸
 三味線山彦源四郎
 十寸見沙洲
 十寸見蘭本
 十寸見河洲
 十寸見東佐
 山彦源四郎
 山彦河良

らんめと
 志いぢや
 元もめ了

男女文字曾我物語 寸二むんめ 中村彦



まき
 まき
 まき

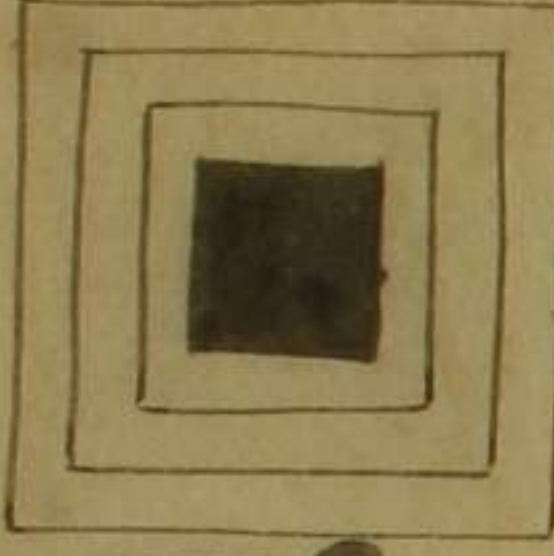


物さるわはあは橋 濃川兼光

江 戸
 三味線山彦源四郎
 十寸見沙洲
 十寸見蘭本
 十寸見河洲
 十寸見東佐
 山彦源四郎
 山彦河良

らんめと
 志いぢや
 元もめ了


男女文字曾我物語 寸二むんめ 中の座




物さるわはあは橋 市川多喜

上


四 戌甲	三 酉癸	二 申甲	寶 辛 未	三 午庚
廿日 の 月			お七 吉三 意櫻返魂香	
江戸東 三味線 山彦源四郎 山彦河良			江戸東 十見常不 十見河洲 寺見東佐	
二月 中村彦 伊豆神高愛鑑 大詰 元二番月			お七 依波川市松吉三 中村余太郎 中村七三郎 中村信九郎	
三代目河東平次七面忌返魂香 江戸東根元集小吉 て増み所 <small>の</small> 中印 <small>の</small> 付 <small>の</small> と <small>の</small> 河東の終を記				



伊豆小袖
高愛鑑
才二番の
中村彦
お七
吉三
返魂香



中村七三郎
中村余太郎
中村信九郎



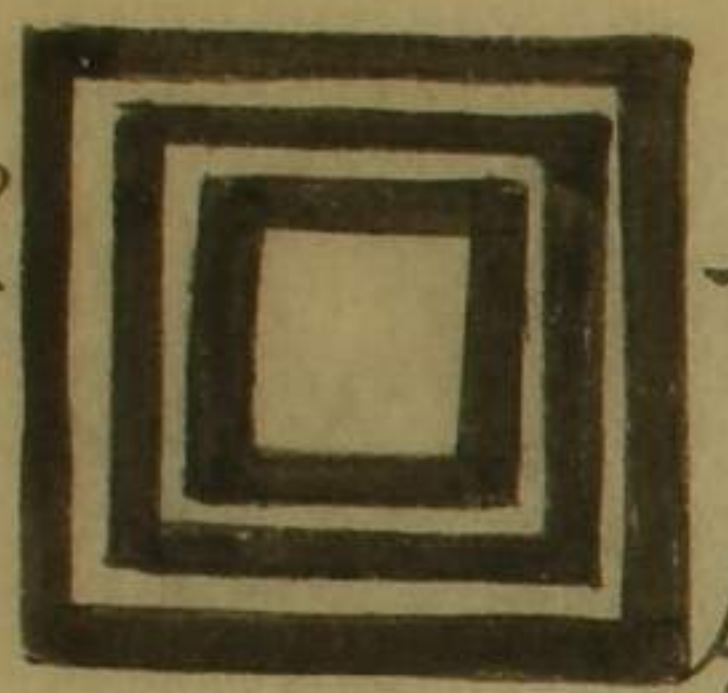
江戸東

三味線山彦源四郎

十見沙洲
十見河洲
十見東佐
山彦源四郎
山彦河良

元二番
板也

富士
筑波



卯月

市川團十郎

下

長生殿常櫻

江戸

突河東

三味線山彦源四郎

十見沙洲
十見蘭示
十見河洲
十見東支

もんも
あいがや
元々每丁

中村産

富士筑波卯月



中村産

けせあがま

中村兵三郎

上

長生殿常櫻



江戸

突河東

三味線山彦源四郎

十見沙洲
十見蘭示
十見河洲
十見東支

もんも
あいがや
元々每丁

十庚辰

十辛巳

十壬午

十癸未

助六所縁江桜
金井三夏
橋田治助

早
十見沙洲三柱
十見草子
山彦河良
江大夫河東
十見草子
山彦新次郎

集語花有里
塚堀
三治作

十見沙洲三柱
十見草子
山彦河良
江大夫河東
十見草子
山彦新次郎

市村庄
江島権元常我
才二番目
御名木橋後九代目
市村庄の成名人之

助六
若夫市村庄我
柳春
意休
白濁
鹿の子
熊夷
山風音八

市村庄
残雪群雷我
才二番目

坂東五郎時宗
坂東三郎
坂東平次七郎
瀬川菊三郎



江戸大夫河東

十見沙洲
十見蘭示
三山彦河良

味山彦秀次郎
線山彦新次郎

板たろふ所
泉屋権四郎
元二丁目

江戸紫根元曾我才二石んめ

市村庄

せりぬ入

下

助六





市村庄縁活橋

あき巻助

市村庄縁相勤










十見沙洲
 十見蘭示
 三山彦河良
 味山彦秀屋
 線山彦秀次郎
 十見東支

板左七五町
 泉屋權四郎
 元二丁目

市村産
 殘雪緑曾我 中 二七九
 濱川 葉子
 巢籠花有里





十見沙洲
 十見蘭示
 三山彦河良
 味山彦秀屋
 線山彦秀次郎
 十見東支

板左七五町
 泉屋權四郎
 元二丁目

坂東
 三三良
 残雪緑曾我 才 二番目
 すがや郎時む
 巢籠花有里
 市村産




五代河東終
其里傳

五
申酉

契情反鬼香
一名新香櫛

助六由縁をの櫻
芝居古香附
十見集集助六師の花道

隱居集雲
東伏 河良 秀元
江天河東
東洲 百次 良波
才見常洲
東市 宣考 半治

○五代河東(俗新)三代目河東の門人初名沙洲後河東(お終)
無據乙子子孫系示忠部(河東を譲り)刺殺して隱居号東雲と改
本郷春木町に住居を今年三月十三日供助込吉祥寺中木藏庵に
葬 法諱 暁照院遊山東雲居士

助六 市川吉元 揚巻 岩井半四郎
富貴 松本幸四郎 意休 坂田半吉郎
関じ 中島甫之 朝敷 坂東三八

市村座 冠言事我由縁 才三苗月

春森田座 信田探達兼曹我
高島庄司行平 松本幸四郎
けいせい逢方 中村富十郎
右條大評判の寄附改年代記載り

可慶翁院五代目存生中忠次郎六代お
終きと云

初

若河良
累付

即
市川門之助
居春

二
若河良
累付

助
市川幸四郎
末尾九郎

助
市川幸四郎
末尾九郎

六
酉丁

おきるがなる山崩河述

因常洲幸四郎退善をうり云
正徳九年(1723)河東を譲りて
備前守と二代目常洲をんし

七
戌

○初代山若河良初代山若河四郎門人として初名良波後河良
神田三河町に住居を没後未詳
可慶翁院下谷廣徳寺前横所一向宗祝言寺墓ありと云

八
亥

○二代目河良初代河良の門人として初名良波と云神田神神社
五住居の天明年中終
可慶翁院富坂下百観音安置の寺院に墓ありと云

九
子

天
卯

二
寅

筆始四季の探題

外要集此浄子をハ
才清侯浄文のし

文魚前附
三法河良

江矢天河東三行
山若河良

文魚述
山若河良

文魚夏傳

竹雅略行

四甲	五乙	六丙	七丁	八戊	寛政巳酉	二庚
○文魚 <small>福林大和</small> 五代目平四郎河東三子段敷多々おがえ 聲節拍子とし小揃ひ <small>名人あり</small> 下 <small>之</small> 清浄清花の庄所 二傳 <small>後森田</small> 所代地河岸通り移住の寛政十二年 春七十一歳まで終	○竹雅 <small>野村氏</small> の隠居湯島切通より住居を同門人よりとりしむ 三拍子揃ひ <small>名人あり</small> 寛政三亥年六月二十七日 て終り <small>名人あり</small> 風調か遊む世業をたしり近世の答巻あり と云世界傳 <small>文魚</small> 附の傳り外題を載し同江戶 常根元集の要を揃ひ記す	比澤 <small>平</small> 年銀町高井孫兵衛より商人の 隠居字一の年あり市川三升 <small>五代目</small> 攝州 佳書の市川の事を作らせ河東三郎附させ 河東三郎 <small>子</small> 附させしあり △孫兵衛信州善光寺邊の生を江戸へ	御田 市川三升作	江東河東 三傳 山彦源四郎		

三 庚 辛

助六花街二葉草

三傳
寺見志明 三傳源四郎及
江東河東 山彦存使

市村在

助六喜保 市村三郎 二日坊月三節
揚卷 中山富三郎 四日坊月三節
白濁堂 大谷徳次 朝敷市川富左

出て川村氏の子河東三郎と因四郎
ありしなりしと云

二代目
山彦源四郎
山彦存使

六 五	四 子	三 庚 辛
六 寅 甲 丑 癸	○二代目山彦源四郎の初代源四郎の門人孫四郎の男として幼名長丸 改名源四郎といひ又二代目源四郎を相傳り後時考次郎源四郎の 名を傳りて山彦源四郎と存傳りて大正十一年十月十日終 正右柳橋荷向道常本藏寺五郎 法号妙體院存候日故	

三代
蘭洲東付

助六
市川男藏
備尾三花

四 卯丁	三 寅丙	二 丑乙	文 化甲	三 亥癸	二 戌壬	享 和辛
源氏土段洋瑠瑠侯春 寺見沙洲三山彦源四郎 江守大支河東山彦河良			甲子祭 室泉述 河良再		○三代目十寸見河洲の池の端に所住する龍圖といふ者の男ありて彦郎と名付し見志明徳の巻子とあり初め彦平と名付しと改後三代目蘭洲と名乗る晩年連升と成り剃髪して俳諧を遊ひ名を其氏とせしむるあり	金澤景 三作 河島神
八月廿日河内尾半以郎方より清く外要集より仔花河本二世代以席の日永代橋高小付河内尾彦河良河内尾彦河良二世階与國橋公合云し					ひとせ若年金澤一行旅店に逗留中文を依り自筆し江戶河内尾彦河良増補云々と	

助六の初役
七代目
市川男藏
備尾三花

九 申壬	八 未辛	七 午庚	六 巳己	五 辰戊	
七重八重花の采 三代目 山彦河良	七代目河東一 彦河良方 三 彦河良	七代目河東一 彦河良方 三 彦河良	七代目河東一 彦河良方 三 彦河良	七代目河東一 彦河良方 三 彦河良	都太夫一中 山彦河良 山彦河良
	三月八日七代目河東一彦代柳橋高初彦河良方より今迄をり當り河東一彦河良居披ありて二代目河東一彦河良改名す				

四代目
常洲隆傳

四
巳辛

秋の白膠木 友我述

今年十月廿六日終年四十一山谷鳥越春慶院に葬られ白島長命寺に
法諱 琴寂院相譽の寛山居士没後八代目河東を賜了

十寸見河洲 四代目 山彦河良
十寸見南示 山彦鍊之郎
十寸見常曉 五附 山彦良波

四代目河東五十四回忌 正徳三年 友我述
三代目河良七回忌 延享二年 友我述
友我述書了り柳橋河内を半次郎方
みて詔了 催主四代目河東

五
午壬

和之良波

松蔭作
和之良波

秋蘭示事四代目常洲と改名の河内
瑞ちり

十寸見常洲 五附 山彦文次郎
都美丈夫中 山彦文次郎

○四代目十寸見常洲の通称河内正徳三代目常洲の長子と據り
初名二代目常洲示今年常洲と成補佐の二代目を勤り
後前髪して魚目生と改名を換事 遊行派の後をたたくて
連外みちりしと云

六
未癸

七
申甲

江戸鷺 学印作

十寸見蘭洲 五附 山彦文次郎
十寸見河洲 山彦七海二
十寸見東曉 山彦良波

三弦工小林幸栄柳橋河内を半次郎
方より一在二代の舎をたきて時の海了
理ちり

八
酉乙

○二代目東雲 俗稱 六代目河東三学の 沙洲といふ後河東の巻
子と云七代目を承徳の文化九十年三月八日河内を去り
て一世一代の舎をあり 南に隱居して二代目東雲の改名を浅
草三軒町に住居きあり今年十月廿四日終年六十四
歳世 十寸見河内より水のあや
七代目河東の菩提所を越壽松院地中峯休院に葬
法諱 清閑院紫光東雲居士

紙△下
七世河東終年文
政三度辰十月廿
六日ト下リ可考

●七代目河東
二代目東雲
終年見付

四代河原良
美畧仔

<p>四 巳癸</p> <p>○四代目山原河原良五歳の時より芳賀郷八<small>往川原の末子</small>の教を 之初名青己後御八青己と三代目河原良運<small>文字の祖父</small>行て河原の字を 名を良波と改後四代目河原良波又隠居して紫林と号し現 年山原檢校と号す今地河原の端に住す天正初年此地に移り後浅草 中代地に移住す今年十月廿三日終 石岸觀應院に葬</p> <p>法禪 幽強院前檢校河原良居士</p>	<p>三 辰壬</p> <p>持目 寸見沙洲 三代目 寸見南示 山原秀次郎 寸見東佐 山原健次郎</p>	<p>二 卯辛</p> <p>寸見常示 <small>全宗部三代目 山原秀次郎 山原健次郎</small></p>
<p>日 鎗切と日 日断</p> <p>五代目沙洲 <small>贈号 代官の長子傳</small>助 <small>初名 事六代目沙洲となり</small> 名弘河内 石手次郎 方もと語す</p> <p>沙洲今の柳子の前夫より後年 行方不知</p>	<p>日 鎗切と日 日断</p>	<p>日 鎗切と日 日断</p>

<p>九 戌丙</p>	<p>十 亥丁</p> <p>松竹梅 文魯作</p>	<p>寸見東洲 山原文次郎 寸見東和 山原良波二 寸見南示 <small>山原良波 山原河原</small></p>	<p>土 子戌</p>	<p>土 子己</p>	<p>天保 寅庚</p> <p>邯鄲上卷 前取 <small>洋大夫</small></p> <p>寸見曾生 <small>三代目 山原秀次郎</small></p> <p>寸見河洲</p>
<p>寸見東榮事東洲と改名弘ノ柳を 河内石手次郎方を語す</p> <p>文魯通称伊勢を安右衛門</p>	<p>寸見東洲 山原文次郎 寸見東和 山原良波二 寸見南示 <small>山原良波 山原河原</small></p>	<p>七代目河東七面忌 <small>取越 追美足澤方</small></p> <p>河内石手次郎方を語す <small>催主曾生</small></p> <p>當日 夜の編笠 <small>人形 西川伊三郎</small></p> <p>足置 力藏</p>	<p>七代目河東七面忌 <small>取越 追美足澤方</small></p> <p>河内石手次郎方を語す <small>催主曾生</small></p> <p>當日 夜の編笠 <small>人形 西川伊三郎</small></p> <p>足置 力藏</p>	<p>七代目河東七面忌 <small>取越 追美足澤方</small></p> <p>河内石手次郎方を語す <small>催主曾生</small></p> <p>當日 夜の編笠 <small>人形 西川伊三郎</small></p> <p>足置 力藏</p>	

付美 七世河東十三回ノ取越ナラニカ

十四 癸卯	曾我兄弟道行	山見曾生 山見紫存 山見魚洲 山見文子	山見曾生 山見河良 山見東壽 山見文次 山見宗示 山見新次	弘化 乙巳	廓八景 玉齋所作	山見曾生 山見河良 山見東壽 山見文次 山見宗示 山見新次	三 乙巳	班女の段	山見曾生 山見河良 山見東壽 山見文次 山見宗示 山見新次	二 乙巳	班女の段	山見曾生 山見河良 山見東壽 山見文次 山見宗示 山見新次	嘉永 申	三曲月の庭 壽海所作	山見曾生 山見河良 山見東壽 山見文次 山見宗示 山見新次	二 乙巳	山見東胤 山見文治	山見曾生 山見河良 山見東壽 山見文次 山見宗示 山見新次
----------	--------	------------------------	-------------------------------------	----------	----------	-------------------------------------	---------	------	-------------------------------------	---------	------	-------------------------------------	---------	------------	-------------------------------------	---------	-----------	-------------------------------------

窪井 追善鱗中七つて語る

山見河洲一周忌追善浄より
河内を半波の方を語る 催主 曾生

弘化代目河洲の父三代目山見河四郎の弟子
山見文四郎之出方にて初名文若三代目河良
三子又七代目河洲を語る 河内河洲と
成補依の三代目を勤めし

薬研堀東胤宅にて初て語る

弘化 乙巳	四季の花園 閑月庵作	山見曾生 山見河良 山見東壽 山見文次 山見宗示 山見新次	都一閑齋 都 曾生	山見曾生 山見河良 山見東壽 山見文次 山見宗示 山見新次	嘉永 申	三曲月の庭 壽海所作	山見曾生 山見河良 山見東壽 山見文次 山見宗示 山見新次	二 乙巳	山見東胤 山見文治	山見曾生 山見河良 山見東壽 山見文次 山見宗示 山見新次
----------	------------	-------------------------------------	-----------	-------------------------------------	---------	------------	-------------------------------------	---------	-----------	-------------------------------------

河内を半波の方を語る
催主 河良

都一閑齋事宇治紫文斎と改めし
名弘と湯屋松金屋子て語る

東山
江
江
江

<p>安政甲 初ふり欠</p>	<p>秋 信田妻釣狐の段 江見矢河史 宗治紫文斎 山見河良 山見文次 宗治二松</p>	<p>大 川社 故子候 遷稿</p>	<p>五 東山懸物揃紫斎作 宗治紫文 宗治紫示 江見矢河史 山見河良 山見河洲 山見音巴</p>
<p>伊勢を平たすの雅倉屋定を聞く</p>	<p>浅草堀田石坂上玄文宅を聞く</p>	<p>○月時清 之段子附四代目山見河良</p>	<p>四 追法<small>の波</small> 麓園述 手東帆</p>

<p>四 追法<small>の波</small> 麓園述 手東帆</p>	<p>三 花<small>くら</small> 山見東帆 山見東佐 山見南示 山見新次 山見新九郎</p>	<p>弓石下久 壽阿孫作</p>	<p>琴橋倉之段 山見紫文斎 山見紫文</p>
<p>坂倉を長九歩の追善法子源行所 骨董家山寺方を語<small>催主</small>南道</p>	<p>山王所祭禮奉船所外七ヶ所附祭 隅田川風景之段 川將の字云 二所自附東帆</p>	<p>通二丁目橋倉之海定を語</p>	

正見可慶 山彦河良
正見東佐 山彦文子
正見紫示 山彦女み

竹生島

宇治紫文齋 宇治倭文
宇治紫風多 宇治三松
正見可慶 山彦河良
正見沙鷹 山彦文子

琵琶行

宇治紫文齋 宇治倭文
宇治紫風多 宇治三松
正見可慶 山彦河良
正見東佐 山彦文子

大音寺 駐春亭にて清く
催主坂上玄文

浅草廣小路美濃をく
催主紫文齋

三丙 追八日の月 宇治作

三陰子附前河檢校
日新再興 可慶

三 業平吾妻下り

正見可慶 山彦河良
正見東佐 山彦文次
宇治紫文齋 宇治倭文
宇治紫園 宇治三松

志能婦 泊應作

正見可慶 山彦河良
正見東佐 山彦文子
正見蘭示 山彦桃子

十一 追善淨瑠璃

大音氏通称土居巻八

東佐女大か車桂子と改め 名弘ノ
河内が半次郎方を開く

○此淨より先可慶子 左瓶といふ
此浄より先可慶子 左瓶といふ
三陰 山彦河良
山彦文子

日本橋教習所 割京家宮村半七方
催主 三全

○泊應ハ金工法橋一乘あり
下 市音田通称三河屋巻八

四 巳丁

即ち初夜
河津権太尉
御子権太尉
録す

	三 癸 亥	二 戌 壬		
三典奏 兼權文燈更 江島代官千朴	田植三番更 有柳 有柳 有柳	永居 持見可慶 持見車作	胡國の夢 織錦翁	山谷新考越八百善而即方之閑 催主 永居
か の 之 諸 文 抄 述	廿見可慶 廿見車作 廿見車魚	廿見可慶 廿見車作 廿見車魚		都草十七親 意尼草日 追善淨り 右日人宅を請
山本さる 十見可慶	山本さる 山本さる 山本さる	山本さる 山本さる 山本さる		秋 柳念 今年七十八 方追善淨り也

文
承
辛

袴馬天狗 都茶櫃	浅草八景 梅之述	拾小袖 筆子述		
廿見可慶 廿見車作 廿見車魚	廿見可慶 廿見車作 廿見車魚	廿見可慶 廿見車作 廿見車魚		四月朔日新吉 尾尾元孝 許抱娼妓 葛美唄女 方追善日 楼上之諸 催主筆子 西宮平 元之
山本さる 山本さる 山本さる	山本さる 山本さる 山本さる	山本さる 山本さる 山本さる		付 娼妓玉着 誰袖
十月 日本橋通 丁目新道 本名店可慶宅 子於て閑 催主 都草	六月朔日浅草 新堀端藏宿 坂倉元長 在り 三回忌追善 高土坂倉元 利左由催 於橋場川 口標上諸			

寸見可慶
九代目河東
壽像



蕙洲写 □

明治
四年
二月
六日の月
高可慶
近兼父追善

明治五年二月廿七日近兼七親追善菊尾橋居宅を修す

近兼
山亮
山亮桂子
山亮運子

寸見東佐
寸見東洲

此淨瑠璃は近江石高以郎又江戸ヤリ執りて寸見東洲に
託て遊り兼次郎も幼年中寄ひし中他は有るを七親
の追善を誓子永代奉り度翁も自附を頼みたり此時翁は
重病を此も好む道とて自附をなせ出来て程を以て終つて
可慶翁の自附の細のりも重病中にも其道を行き好子の
尾鑑あり七年とたれて翌申年可慶翁の周年を以て修す
あり

十寸見可慶畧傳

本姓ハ伊豫北越の人あり文化四年丁卯某月出生幼名金次郎と稱す又母を左やく後水て京都來り文政四年辛巳二月より日中橋え大工所新道なる百敷檢校三代目山彦河良也に侍して河東節と學ぶ日八年乙酉下谷地端なる河東山彦河良入内して名を左く日九年丙戌三代目山彦次郎と改名す

天保四年己亥代目山彦此名と更あたます

弘化四年丁未八月十寸見東龍と成

嘉永三年庚戌八月十寸見河太と改名す

日五年壬子閏二月江戸太丈と成

日六年癸丑江戸太丈の稱を魚川津連申へ改け

同年十一月八日剃髮して可慶と更名す

明治三年庚午十月より偶喉痺の病發りぬ頓に瘡がさる可

同四年辛未正月淺茅海濱所河岸の家財を移して日を橋

博正のち醫師殿木氏河東の女方同居して瘡を養せしむ

三月廿日代目泉下の客とありぬ時年六十五歳市ヶ谷左

内坂下龍谷山洞雲禪寺に葬を法講智山定慧可慶居士

没後九代目河東と進踊り川人ゆきをりて向山長命寺

境内河東代々の墳墓を並べて石碑を建たり千時同年

四月

享保の元祖河東一派を起してより芝居がさるて諸

り事ハ前條に記す如き事ありの星雲

を信じてあつて人耳に傳はりかゝ支まては曲の

助六狂言古浄瑠璃を用ひてす都

八好 助六

助六廓家櫻

才見常洲

江奈夫河東

山美津四郎

助六由縁江戸櫻

天明 二寅

助六廓花道

中村庄

御攝録曾我

オニ者目

助六 市川門助

朝敷 坂東利根花

白玉 瀬川吉次

四月より 市村庄

信田館世絶引船

即ち 市村庄

白濁 市川幾花

朝敷 坂東利根花

白濁 市川幾花

朝敷 坂東利根花

白濁 市川幾花

朝敷 坂東利根花

白濁 市川幾花

調子ひさしく城の芝居にゆぶ成りありはとひと友
も望みし世の曲ハ面白くぬものありきとの世人は
いふやうな可成りな海に歌をいふやうにして古調を改
正せんとお身聲曲之法を修練して終に教習して
曲節を復古せしあり志のこもりは翁の語を初て
まゝし人きても面白き聲曲ハありなると感伏
せあり又一ハなげては翁の門のふりておれおれもの
故序もよま違あらば年々の新浄瑠璃ハ世翁の管附
並に翁もよみ附して翁の人氣のよまあるやういひしへ
お世翁の知節のよまをいひしをあり

此母 文化二年河原崎座ニテ舉行セシ助六、助古廓ノ花道ナリト原武大夫ノ書ニアリ後ノ證ニ具ス

附録附箋必印

江戸洋瑠璃三弦古事ニ
 女苗ひらちや治たり
 江戸大夫双笠 後庭香
 右河東舟子ニテ松のちみ出つとぶしと清後、東雲
 舟子となり功考あり

<p>文久 壬戌 二月 三月</p> <p>助古由縁江戸櫻</p> <p>寸見可慶 佐佐木 松平 寸見河東 東洲 文示 寸見河洲 山崎 良示</p>	<p>大江戸の 助六所縁江戸櫻 寸見河東 寸見河洲 寸見河洲 寸見河東</p>	<p>市村座 青磁箱花紅彩画 才二番目大切 市川團十郎 白江 中村芝翫 市川團十郎 朝秀 市川新子 市川團十郎 朝秀 市川新子</p>	<p>市村座 陽田川花御所漆 才二番目大切 助六 七代目国十郎改名海老花 揚巻 岩井半三郎 白江 岩井半三郎 意休 松平幸四郎 白江 市川新子 市川團十郎 白江 市川新子</p>
---	--	--	---

助六所縁八重櫻女

守田座會著山咲分源氏

河東連中

大夫夕丈 十見東川
 十見河洲 十見東川
 十見東和 十見東川
 十見東和 十見東川
 十見東和 十見東川

助六 河東崎三升 白酒 中村翫雀
 揚卷 岸半四郎 白玉 河東崎國太郎
 意休 中村仲花 朝衣 中村崎花
 園居 坂东吉六 海江 岩井繁松
 外郎慶 市川阿久平
 初舞臺

今度芝居出勤付十寸尺在依の江戸太夫夕丈と成東洲の河洲と成
 山房秀吉の四代目秀次郎と改名
 世芝居も岩井宗若の八代目半四郎と改名は意各の後中村仲花
 お勤まり始の務花と云い此よりお中役考より数年の了藝道
 丹旆して終は比大役を勤まり可減る身面目を施し

江戸と唱ふことを奉る付今度芝居魯の付人江戸太夫を
 帰りに名題江戸楼を八重櫻と改メ河東連中と云ふ
 着極をのりし番附は右太河東並連中名記は同年
 五月中於教部者河東音根元御札有る許江戸太夫と
 唱ふ来りしを帰りに太夫とありお唱は後中音不不及
 在後と是と通る江戸節江戸太夫と唱ひ此事より一の
 趣は竹海(事)



早 江戸十良三味線
 江戸太夫双登
 同 江戸文治良
 年替切曾我

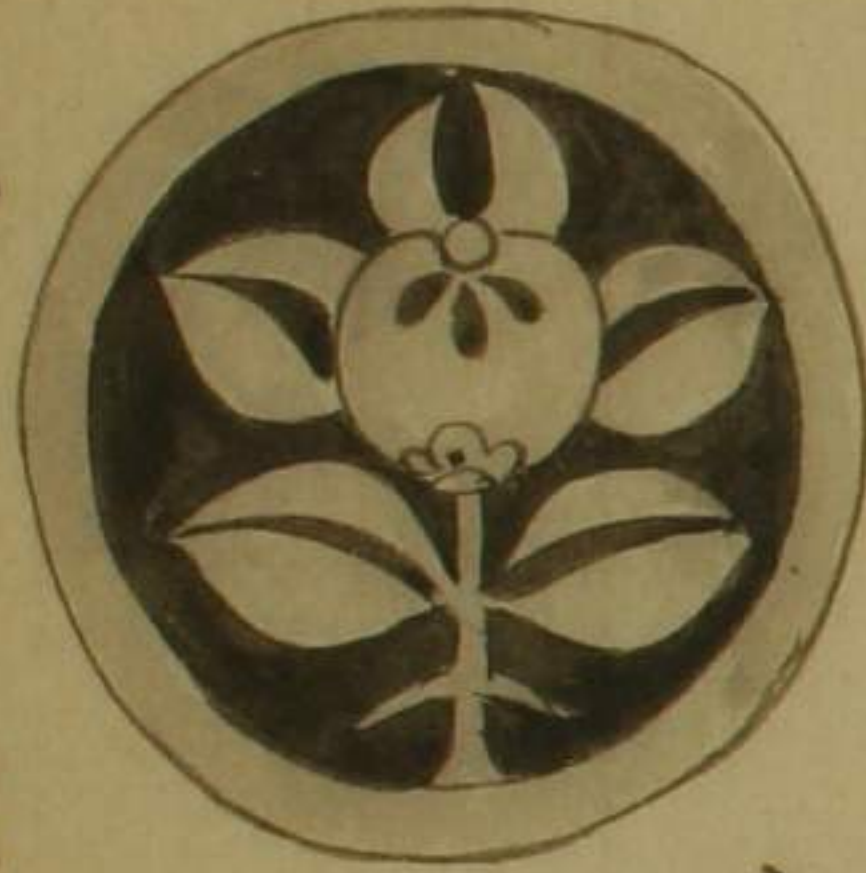
久留
 市村

市村庄

中嶋屋
 七んも

<p>元文 五庚 有馬湯女の巻華 山 早 夕文 吉登 江戸太夫双登 三味線 山彦源四郎 山彦源太郎</p>	<p>国羊 杜若縁 江戸太夫双登 早 吉登 山彦源四郎 山彦源太郎</p>	<p>此録はあべけしと吉印中を得て其代譯を故右之版を所録す</p>	<p>此時三代目園十郎助六の狂言也 同座 同名題 市三番目 助六 三代目市川園十郎 幼名并音と勢 此母前白濁夢 新巻富門太郎 市村中丸馬助 市村庄 姿見隅田川 市二番目 吉田女将 市村中丸馬助 湯女前 市村中丸馬助</p>
---	--	-----------------------------------	---

杜若 娘 丹 前



市村 字乃の



お店とめ 中々

物 登 通 曾 我 才 三 番 目

三味線 早 古 登 又 大 登 三味線

江 尻 夫 双 登

三味線 山 登 酒 四 郎 出 産 方 乃

元 濱 町 板 元 所

三味線 同 字 乃

後 畫

傾 城 水 馴 掉

物 登 通 曾 我 才 三 番 目



市 乃 乃 乃

三味線 同 字 乃

元 濱 町 板 元 所

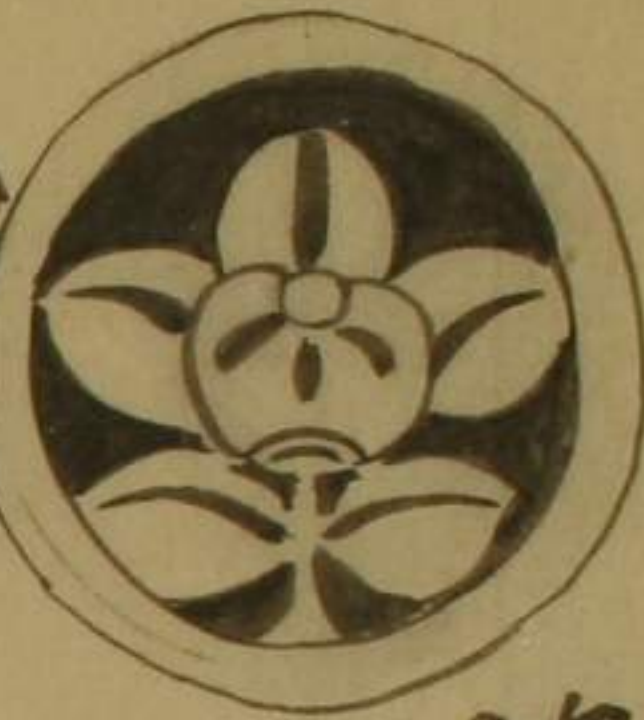
江 尻 夫 双 登

三味線 山 登 酒 四 郎 出 産 方 乃

三味線 同 字 乃

題河東歌曲

吾武於來用志如
 鏡歌歌入本平詠
 彦音媚々柳揚壯
 結索嘈々排撥優



有
 湯女卷

富田
 水勤

市村

市村

安親
 隅田川
 才武書目



三味線
 山彦
 新次良

早夕
 鉄古
 大

浮天夫
 及
 立

板元所
 五
 九
 渡
 町

今樂誰知如古樂
 橫流於海認源流
 幸欣我譜揚吾曲
 寄在河東百尺樓

東京 遊中野又書世



享保の以元祖河東一派の聲曲をけえこしより百まり
 五斗とちほり十寸流のくまりあく啓の息長く倍り
 倍りたはれあ 右平の仰代の御あがりなりあつたあ
 をふふな意あめんとし世多曲をふりこのもの
 あり事務のいし海の高まり者あり今の世のいしは
 おても来し海を此由家りの多代をま之法理の暑
 借をいれするより考しつるおのまをいれせし種
 の事なりはあつたりし終るとちつたなりして十
 寸見聲曲孫年集となむ名つてしるりてあつひ

まかせたものゝ上よかゝるを...のたゞりといふんもの
世々みぢおきてまゝ何のあゝんおのりもの
をせよとせよといふ書巻のなまなりよとていふの
うゝをまかすゝゝ

十寸見の芝の法

□□

の法とをよめり
ふり

はむ、作者ハ葛原ハ似稱ヲ川尻甚七トシテ
金座ノ下役人ナリ明治十二年ノ頃歿ス

大谷田香遠翁ヨリウケリ

癸未十月

如實共々之ノ事

此書は中...の事...及じ夫婦...知己の
家...の家...

